



# 6

## 随筆を読もう(3)

◎主人公の好奇心をとらえよう

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



本文

10

10

5

本文

30

25

20

# 本文

問一 屋根裏部屋へ入りこんだ「ぼく」の、心のときめきがわかる一文を文章中から書きぬいて答えなさい。

問二 「ぼく」によれば、ねずみ小僧次郎吉は一口に言って、何でしたか。文章中から五字で書きぬいて答えなさい。


問三 ねずみ小僧のほおかぶりについての、「ぼく」の新発見とは、

何でしたか。

問四 「ぼくら」が実在を信じている山ねこは、どんなねこでしたか。□に色を表す漢字を書きなさい。


な毛の大きなねこで、□色の目をして

いる。

問五 〜〜線①「これ」と、〜〜線②「それ」は、それぞれ何を指していますか。

① これ…

--

② それ…

--

問六 ―線部「思わず声が出そうになるのを必死になってこらえ」とありますが、なぜそうしたのですか。

問七 長持があらぬ妄想をかきたてるのは、なぜですか。

ちようど

--

大ききだから。

○場面の変化をつかもう

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

20

15

10

5

本文

35

30

25



# 7

## 論説文を読もう(1)

☉ 話題や要点をしらべよう

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



本文

15

10

5

本文

20

20

# 本文

問一 — 線①「大きく三つに分けられます。」とありますが、食べものについてどう分けられるのですか。□にあてはまることばを、文章中から書きぬいて答えなさい。

一つめ…  
 □  
 □  
 □  
 や草の根や魚や貝をひろいあつめて食べていた時代。

二つめ…  
 □  
 □  
 □  
 □  
 の栽培もはじめた時代。

三つめ…  
 □  
 □  
 □  
 □  
 □  
 の栽培をはじめた時代。

問二 — 線②「穀物はまだありませんでした。」とありますが、穀物が生産できるようになると、どれくらいのお食物ができるのですか。具体的に説明している一文を文章中からぬき出し、そのはじめの五字を書きなさい。

□
□
□
□
□

問三 — 線③「イネの栽培をはじめた」とありますが、日本ではどんな技術をつかったのですか。文章中から書きぬいて答えなさい。

□
□
□
□
□

問四 □ A・Bにあてはまることばを次から選んで、それぞれ記号で答えなさい。

- ア ところが
  - イ では
  - ウ あるいは
  - エ なぜなら
  - オ ですから
- B A  
□ □

問五 — 線④「あまった時間をもつ人間が生まれました。」とありますが、この人たちはどんなことをしたのですか。あてはまらないもの一つ選んで、記号で答えなさい。

- ア いろいろくふうしたりする生活。
- イ 畑仕事ではない仕事。
- ウ いろいろ考えたりする生活。
- エ 穀物をさらにたくさん生産する仕事。

問六 この文章の内容にあうものを次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 穀物の生産が人類の文明をきりひらくことになった。
- イ 日本の縄文時代には、すでに稲作がはじまっていた。
- ウ 日本人はドングリを食べる前にはイモを食べていた。
- エ 日本では世界に先がけて、お米をつくりはじめた。

○ 考え方のすじ道をとどろこう

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文

20

15

10

5

本文

問一 — 線①「金属の道具をつかったりしはじめました。」とありますが、金属の道具をつかうことの利点が説明されている一文を文章中からぬき出し、そのはじめの五字を書きなさい。


問二 — 線②「矢じり」とありますが、金属をつかうことで、矢じりはどうなったのですか。次の文の□にあてはまることばを文章中から書きぬいて答えなさい。

- ア タミル語      イ 大きな石  
ウ 金属          エ 武器

問三 — 線③「それがわかります。」とありますが、何がわかるのですか。次から選んで、記号で答えなさい。

矢じりが


なった。

- 問四 — 線④「穀物の生産」とありますが、穀物の生産は、何を つくりあげるきっかけとなったのですか。文章中から二字で書きぬいて答えなさい。
- ア 機織りが日本では弥生時代からはまったこと。  
イ 弥生時代には、青銅器と鉄器を使いはじめたこと。  
ウ 縄文時代には、植物の繊維を編むことは知っていたこと。  
エ 縄文時代に、魚をとる網をつくるのは大変だったこと。

問五 — 線⑤「同じです。」とありますが、どこが現在の京都市の三つの区をあわせた面積と人口と同じなのですか。


問六 — 線⑥「矢じり」とありますが、金属をつかうことで、矢じりはどうなったのですか。次の文の□にあてはまることばを文章中から書きぬいて答えなさい。

問七 この文章の筆者の考え方の特色を次から選んで、記号で答えなさい。

- ア 古代の世界と日本の交流を分かりやすく述べている。  
イ 古代の世界と日本の様子を対比させながら考えを述べている。  
ウ 古代の世界と日本の様子を自分の推理だけで述べている。  
エ 弥生時代のすばらしさを当時の世界と比べながら述べている。

漢字とことばの知識⑦

- ① 次の( )にあうことばを「 」から選んで書きなさい。
- (1) わが家に帰る( )、手紙がとどいていた。  
(2) あちこち探した( )、クワガタは見つからなかった。  
(3) つり橋は危ない( )、気をつけてわたりなさい。  
(4) 夏休みは、海で泳い( )、山に登ったりした。
- 「の」      「ので」      「だり」      「と」

# 前講座

## 前講座

### ⑥ 随筆を読む(3)

〈22～25ページ〉

1 問一変に胸が高鳴っていた。問二正義の味方 問三(ほかかぶり  
は)屋根裏へもぐるときのクモのすよけたったこと。問四真つ  
黒・金 問五①父方の祖父母の家へ兄弟だけでとまること。②刀  
問六(例)声を出せばおじいさんに見つかって、こっぴどくしから  
れ、家へ帰されてしまうから。問七人がねている

## 解説

2 問一にもどった。問二イ 問三(1)目まいがする (2)①しなやか  
②まっすぐ 問四ウ 問五かぶれていないかどうか

# 解説

〈漢字とことばの知識⑥〉

- ① (1)ろ (2)〇 (3)き (4)せ (5)〇 (6)い

## ⑦ 論説文を読もう(1)

〈26～29ページ〉

- 1 問一(一つめ)木の実 (二つめ)イモ (三つめ)アワやイネ 問  
二穀物の生産 問三高度の水田耕作の技術 問四 Aオ Bイ 問  
五エ 問六ア

# 解説

# 解説

- 2 問一金属をつか 問二ウ 問三するどく 問四ウ 問五都市  
問六バビロン 問七イ

# 解説

〈漢字とことばの知識⑦〉

- ① (1)と (2)のに (3)ので (4)だり

# 次講座